

施策評価シート（令和4年度 実績）

基本目標	地域産業の振興を図り、仕事を生み出しやすい環境をつくる
------	-----------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	地域農林業の活性化	評価者	環境・産業担当参事			
施策内容	食糧の自足だけでなく地域環境の保全の観点からも、農林業に対する取り組みは重要であると認識し、新規就農者の確保や特産物の普及、有害鳥獣対策など、多方面からの支援を実施します。					
主な事業	予算等事業名	行政評価結果	KPI達成への有効性	説明		
	1	農業振興事業	適当	有効だった	新規就農者への支援や農産物の普及促進により、農業振興に取り組んだ。	
	2	遊休・荒廃農地対策事業	適当	有効だった	農地パトロールの実施により、遊休荒廃農地の解消に努めるよう促した。	
	3	特産物普及奨励事業（農業再生事業）	適当	有効だった	落花生とオリーブの生産補助により、町の特産品として生産量確保に努めた。	
	4	有害鳥獣対策事業	適当	有効だった	有害鳥獣対策協議会との連携や農作物被害の防除に対する支援に努めた。	
重要業績評価指標（KPI）①	指標名	新規就農者数（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	2	2	2	2	C
	実績		2	3	1	
	分析	計画値下回っているが、就農を目指す研修者と情報共有を図れているため良好である。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	
重要業績評価指標（KPI）②	指標名	町内オリーブの生産量（トン）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	1.1	1.5	1.8	2.1	C
	実績		1.09	1.41	1.29	
	分析	計画値は下回っているが、支柱等の補助で成木が増えつつあるため収穫の増が見込めている。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	
重要業績評価指標（KPI）③	指標名	有害鳥獣の捕獲数（頭）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	57	120	100	100	C
	実績		124	51	24	
	分析	現在の指標では施策の進捗が測れないため、次期計画では指標を見直す。				
	方向性	指標の見直し	目標値（指標）の見直し案		遊休荒廃地の復元整備支援件数	

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金による支援により、遊休農地の一部解消や農地の集約をすることができた。 ・オリーブは農業法人による生産量が増加傾向にある。また個々の農業者には、継続的な栽培ができるよう資材等の補助を実施した。 ・豚熱の影響かは不明だが、捕獲頭数は減少し、出沒確認区域も縮小している。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ①新規就農者の確保を含め、農業の担い手不足は深刻な問題であり対策が必要である。 ②オリーブの生産性を高め、生産量の安定を図ることが必要である。 ③鳥獣による農業被害を完全に無くすことは困難であることから、農業者と連携し更なる対策が必要となる。 			
	改善点 (課題番号 に対応)	<ul style="list-style-type: none"> ①全国的に担い手が不足しているため、県やＪＡと支援策の連携をし、新規就農者の確保に引き続き努める。 ②特産物であるオリーブの付加価値を高めるため、地域団体商標の認定に向けて周知性を高める策を検討する。 ③有害鳥獣対策協議会との連携を図り、防除策に対する支援や県補助金による捕獲奨励などにより、鳥獣による農業被害の防止に努める。 			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった	

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模農業が難しい二宮町では、小規模な有機野菜や特産品など付加価値の高いものを生産し、出荷することになるが、販路の確保が重要であるため、生産から加工、販路確保まで地続きの支援が必要である。 ・遊休農地対策として、新規就農者やオリーブ等の特産品栽培者を対象にした遊休農地活用マッチング支援に取り組む必要がある。 ・オリーブを町の特産品にするためには、知名度の向上のほか、生産数や販売数の増加が必要であり、町として重点的に生産者をバックアップする体制や町全体で気運を盛り上げる取り組みが必要である。 ・KPI③「有害鳥獣の捕獲数」の見直しと、新たな指標「遊休荒廃地の復元整備支援件数」は妥当である。 			

今後の方針（二宮町総合戦略推進本部）

	予算等事業名		行政評価の 方向性	総合戦略	
				方向性	特記事項
各事業の 今後の方向性	1	農業振興事業 (担当課：産業振興課)	現状維持	継続推進	・全国的に担い手が不足しているため、県やＪＡと支援策の連携をし、新規就農者の確保に引き続き努める。
	2	遊休・荒廃農地対策事業 (担当課：産業振興課)	現状維持	継続推進	
	3	特産物普及奨励事業 (農業再生事業) (担当課：産業振興課)	要改善	継続推進	・町の特産品について、講習会による栽培技術指導を図りつつ、生産体制に応じた集荷案内を行うことで、生産量の確保に努める。 ・湘南オーリーブの付加価値向上のため、地域団体商標の認定を目指し、認知度を高めるための策を検討する。
	4	有害鳥獣対策事業 (担当課：産業振興課)	現状維持	継続推進	・引き続き町有害鳥獣対策協議会との連携による広域防護柵の設置、町補助金による自主防除の支援のほか、町実施隊の組織強化、県補助金による捕獲奨励により、鳥獣による農業被害の防止に努める。